

国語科学習指導案

単元名：

「やまなし」

(全8時間扱い中 第2時)

授業日時 令和3年10月14日(木)第2校時

授業学級 6年2組

授業会場 6年2組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立てとねらい)

「やまなし」を読んで、宮沢賢治特有の表現に注目し、表現の意図について興味を持った子どもが、色が変化する場面ごとに分けられた「五月」を通して、物語の世界の中に入って味わうことのできる物語の面白さに気づき、「五月」の情景のイメージを持つことができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの動き	・指導 ※留意点 《教材》 【評価】	時間
導入	1. 全員で「五月」を聴く。	・やっぱり何が言いたいのかよく分からないな。 ・書かれている言葉や表現が難しく、分かりにくいな。	・今回は「五月」の部分を読み取り、イメージを作り上げていく。 《朗読音源 YouTube(五月部分のみ)》	5分
	2. 写真資料を見る。	【学習問題】「五月」の情景のイメージを持とう。 ・川の中ってこんな感じなのか。 ・かわせみって私たちから見るとかわい鳥なんだ。	・かにがいる「谷川」はどちらでしょうミニクイズ ・川の中の世界への想像を深める。 《川の中の写真、かわせみ、かばの花を電子黒板で示す》	4分
	【学習課題】「五月」の中では、川の中の世界はどのように描かれているのだろうか。			
展開	3. 三場面から、自分の好きな場面を選ぶ。	・私は「日光の黄金は」が好きだから、二番目にしようかな。	・場面の区切り箇所を提示し、なぜ教師がそこで区切ったかを問いかける。 ・自分はどの場面について考えたいかを決め、グループに分かれる。	5分
	4. 表現から情景を読み取っていく。	・「光のあみ」って、こんな風景かなって私は思うけど、他の人はどう思う？ ・この表現ってこういう意味かな。 ・絵に描いてみようかな。	・個人で3分、その後グループで7分で、描かれた世界を自分の中に作り上げていく。 ※考えても分からないものは、後で全体共有する。絵を描いてもOK。	10分
	5. 全体共有	・確かに、この表現ってこんな景色を表しているね。 ・	・ばらばらで考えたイメージを全体でつなぎ合わせる、出てきた疑問点は皆で考えてみる。	18分
終末	6. 振り返りを書く。	・一度読んだときよりも、言葉が分かるようになり、想像しやすくなった。 ・「十二月」でもやってみたい。	【評価(対象)】川の中の「五月」の情景を、記述を基に想像しようとしている(ワークシート)。	3分